

あさぎり町と共に歩む

# 熊本県立 南稜高等学校 魅力化基本計画

令和8年3月策定

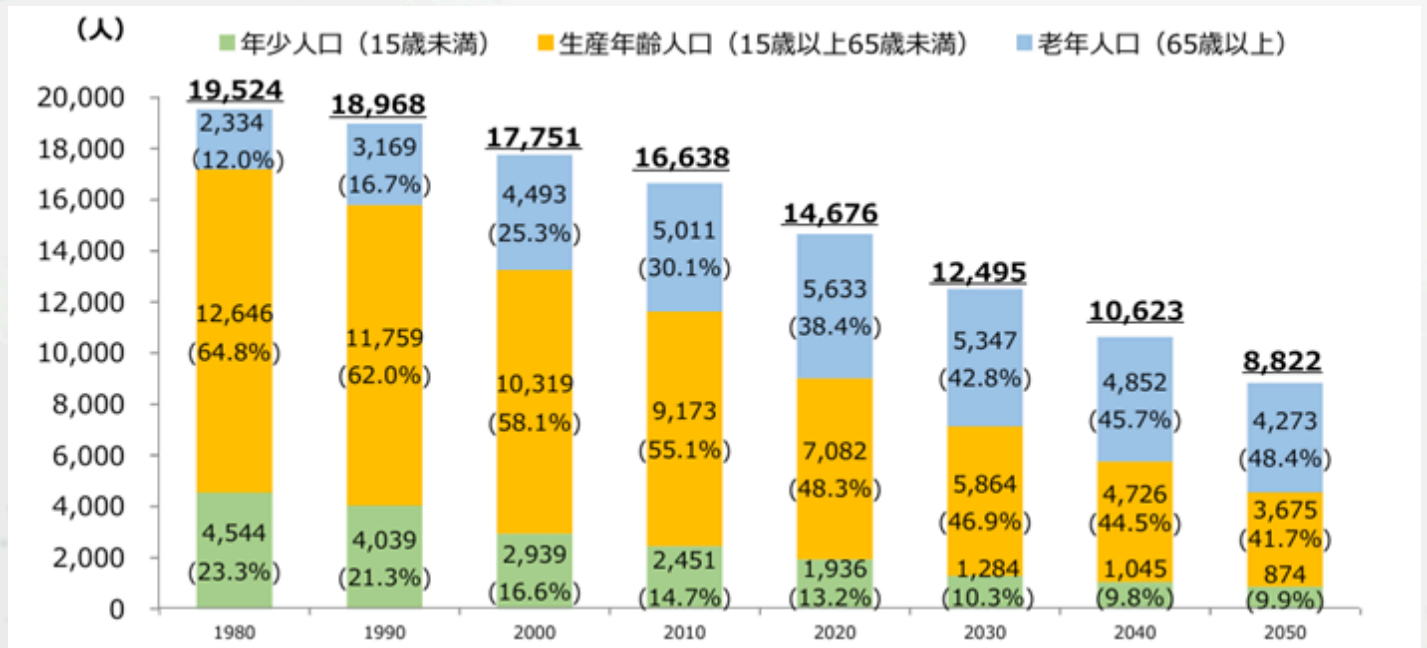
# 1. あさぎり町の現状と課題

参考：第3次あさぎり町総合計画より

## 《人口減少と少子高齢化》

昭和55（1980）年には19,524人であったあさぎり町（当時は旧5町村）の人口は、令和2（2020）年には14,676人となりました。令和32（2050）年には8,822人となり、総人口における老年人口（65歳以上）の割合は48.4%、15歳未満の年少人口は41.7%になると予想されています（図表1）。あさぎり町の高齢化率（65歳以上の割合）は令和2（2020）年時点で38.4%と、熊本県（31.1%）や全国平均（28.0%）を上回っており、世界で最も高い高齢化率の日本の中でも高い高齢化率であるといえます。人口減少と少子高齢化対策は喫緊の課題であるといえます。あさぎり中学校を含め人吉球磨管内中学生の進路状況を見ても管内進学が増加には至っておらず、管外進学が減少し通信制や専修学校等への進学が増加傾向にあります。

図表1



出典：国勢調査（総務省）、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

図表2 あさぎり町立あさぎり中学校人吉球磨管内進学状況

年度別	令和4年度	令和5年度	令和6年度
南稜	25	29	21
人吉	39	44	38
球磨工業	17	24	23
球磨中央	35	24	27
人吉五木	0	1	2
計	116	122	111



## 2. 南稜高校の現状

### 《入学者の現状》

**2024年度 全体定員数200名に対し、124名。(定員充足率62%)**

**2025年度 全体定員数200名に対し、124名。(定員充足率62%)**

南稜高校の近年の入学状況は、全体として1学年120名規模で安定しつつあります。募集定員200名に対しては「定員割れ」の状態が続いていますが、R5年度の102名からR6・R7年度には124名へと入学者数が回復し、一定の充足率（約62%）を維持している状況です。

### 《生徒の進路傾向》

① 近年の傾向として就職6割、進学4割、管内就職率が上昇中しています。

**管内就職率・・・35.4% (R4)、39.0% (R5)、42.1% (R6)**

**県内就職率・・・61.3% (R4)、61.0% (R5)、59.6% (R6)**

**県外就職率・・・38.7% (R4)、39.0% (R5)、40.4% (R6)**

② 専門性を生かした就職（公務員・農協・土木建築・食品製造・介護等）は減少傾向です。

**専門性を活かした就職・・・39.7%(R4)、36.2%(R5)、34.2%(R6)**

進路の近年の傾向として、地元への定着が進んでいます。人吉・球磨地域への管内就職率が35.4%（R4）から42.1%（R6）へと着実に上昇しており、地域産業を支える人材を多く輩出しています。

一方で、県外への就職も約4割（40.4%）に達しており、地元と広域の両面で進路が展開されています。また専門性を生かした就職（公務員・農協・食品製造・介護等）については、39.7%（R4）から34.2%（R6）へと減少傾向にあり、生徒の職業選択が特定の専門分野に留まらず、より多様な業種へと広がっている現状を示唆しています。

## 3. 熊本県における県立高校の方向性

### 《魅力ある学校づくりに向けた取組》

これからの県立高校は、地域の人々・企業・大学等といった多様なパートナーと連携して、生徒一人一人の心に火をつけるような地域社会への貢献を通じて学ぶ機会を提供し、その経験を通じて生徒の志を育て、未来を切り拓く力を育んでいくことが、これから特に重要です。

#### ●取組みの方向性と主な施策

<b>① 地域（地元自治体・企業等）等との連携・協働の推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域との協働体制（高校魅力化コンソーシアム）の構築及びコーディネーター配置の推進</li><li>・地域と連携したキャリア教育や専門的な学びの充実、半導体関連人材の育成</li><li>・小中学校と連携した地域での教育活動の推進</li><li>・地域の私立学校等と連携した教育活動の推進</li></ul>	<b>② 時代に対応した質の高い学びの推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・熊本スーパーハイスクール構想、高校間連携の推進</li><li>・高大連携・高大接続の推進</li><li>・グローバル人材の育成</li><li>・D X関連人材の育成</li><li>・S T E A M教育の推進</li></ul>
<b>③ 多様なニーズに応じた学びの場づくりの推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・I C Tの活用による遠隔教育の充実</li><li>・全定通にとられない柔軟な学びの導入検討</li><li>・インクルーシブ教育の充実</li><li>・地域や学校の特色を踏まえた部活動の充実</li><li>・外国にルーツを持つ生徒の学びの充実</li></ul>	<b>④ 学びを支える教育環境整備の推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・施設・設備の充実、通学や住まいの支援の検討</li><li>・教職員の確保や弾力的な配置、スーパーティーチャー（指導教諭）の活用、業務の精選・重点化、スキル向上</li><li>・教育D Xの推進</li></ul>

### 《募集定員の見直し》

#### ●現状と課題

現状において、県全体で約60クラス分の定員割れが生じており、中学校卒業予定者数の推移を見れば、**今後10年間で更に約50クラス分の入学者の減少**が見込まれています。また、中学校卒業予定者数が減少するのは熊本市外だけでなく、熊本市内についても、令和9年（2027年）3月卒業者から減少期となります。

#### ●取組の方向性

熊本市内の大規模校を含む**全校を対象とした計画的な学級減**を実施。（R9～R16年に62学級減目安）定員割れによる学級減、統廃合の基準を策定。

**(R10以降適用、魅力化特例校※に認定された場合は適用除外)**

※魅力化特例校とは...1学年3学級以下の高校で、学校存続のために地域から必要な支援や評価が得られている学校

## 4. 高校魅力化の考え方（策定の趣旨）

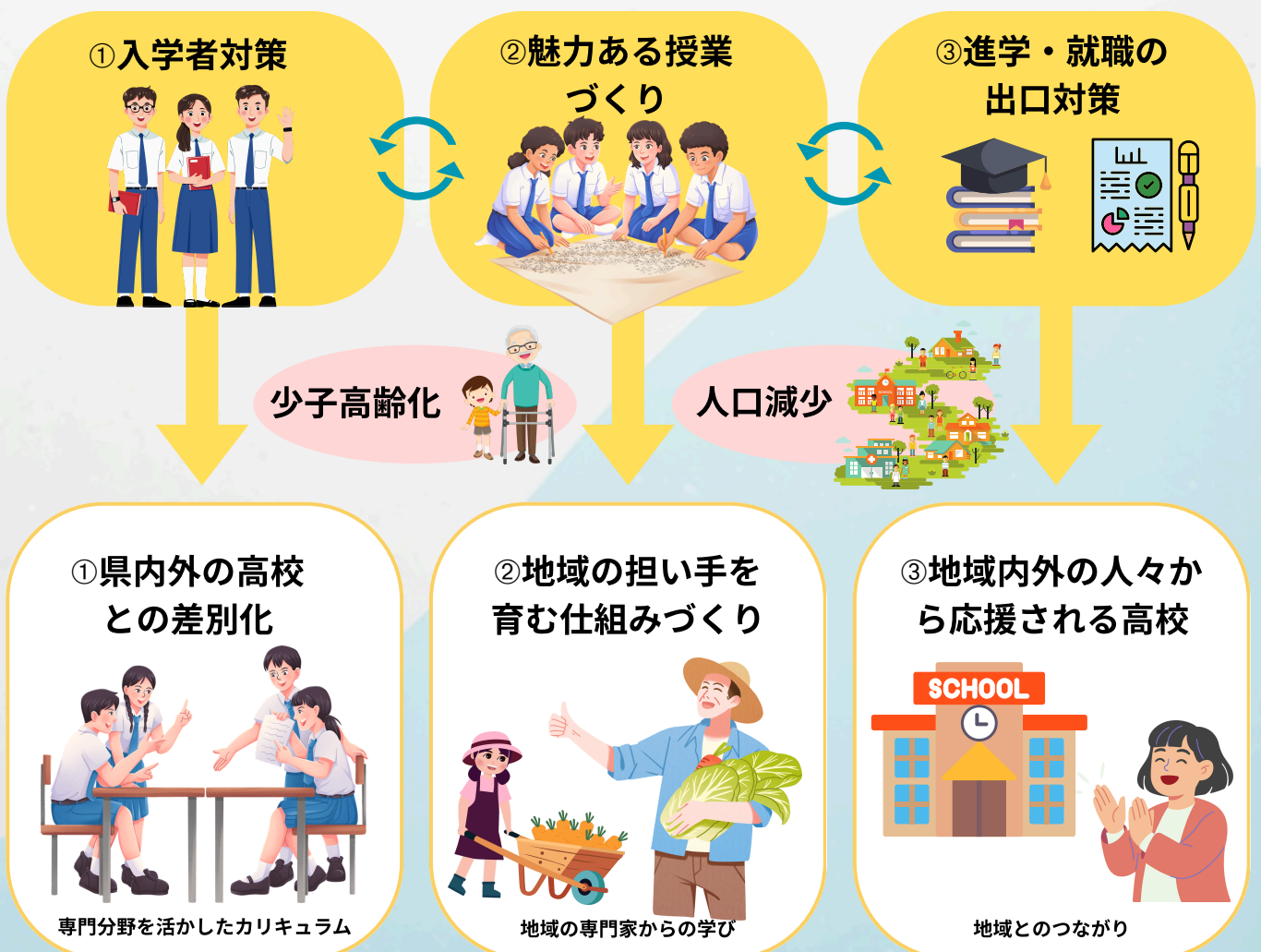
《地域及び県内外から「選ばれる高校」づくりを推進》

近年、少子高齢化・人口減少が加速する中で、日本国内では毎年約450校の学校が統廃合の憂き目にあっています。これまでは小学校・中学校の統廃合がより進んでいましたが、熊本県内の公立高校も本格的な再編が行われようとしている中、**南稜高校も大きな影響を受ける可能性が高い**と考えられます。

このような中、「**地域の未来は若者がつくる、学校がない地域の未来はない**」という想いのもと、高校の魅力化を推進する上で①入学者対策 ②魅力ある授業づくり ③進学・就職などの出口対策は三位一体で考え検討していくことが重要です。

その上で昨今の少子高齢化・人口減少、そして本業務の目的に照らし合わせ、①県内・県外の高校との取り組みの差別化 ②地域の担い手を育む仕組みづくり ③地域内外の人々から応援される高校づくりの視点で取り組んでいきます。

### 高校の魅力化は三位一体で進める



## 5. 魅力化推進の方向性

南稜高校は、あさぎり町やその他周辺を取り巻く豊かな自然、伝統文化、農林業といった地域資源を「ウェルネス（心身の健康と社会的な幸福）」の視点で再定義し、新たな価値を創造できる「ウェルネスデザイナー」を育みます。生徒一人ひとりが、自らの心身を整えながら、地域の課題をクリエイティブに解決し、持続可能な未来を主体的にデザインしていく力を養うものとしします。

次の通り基本的な方向性として明示します。

1

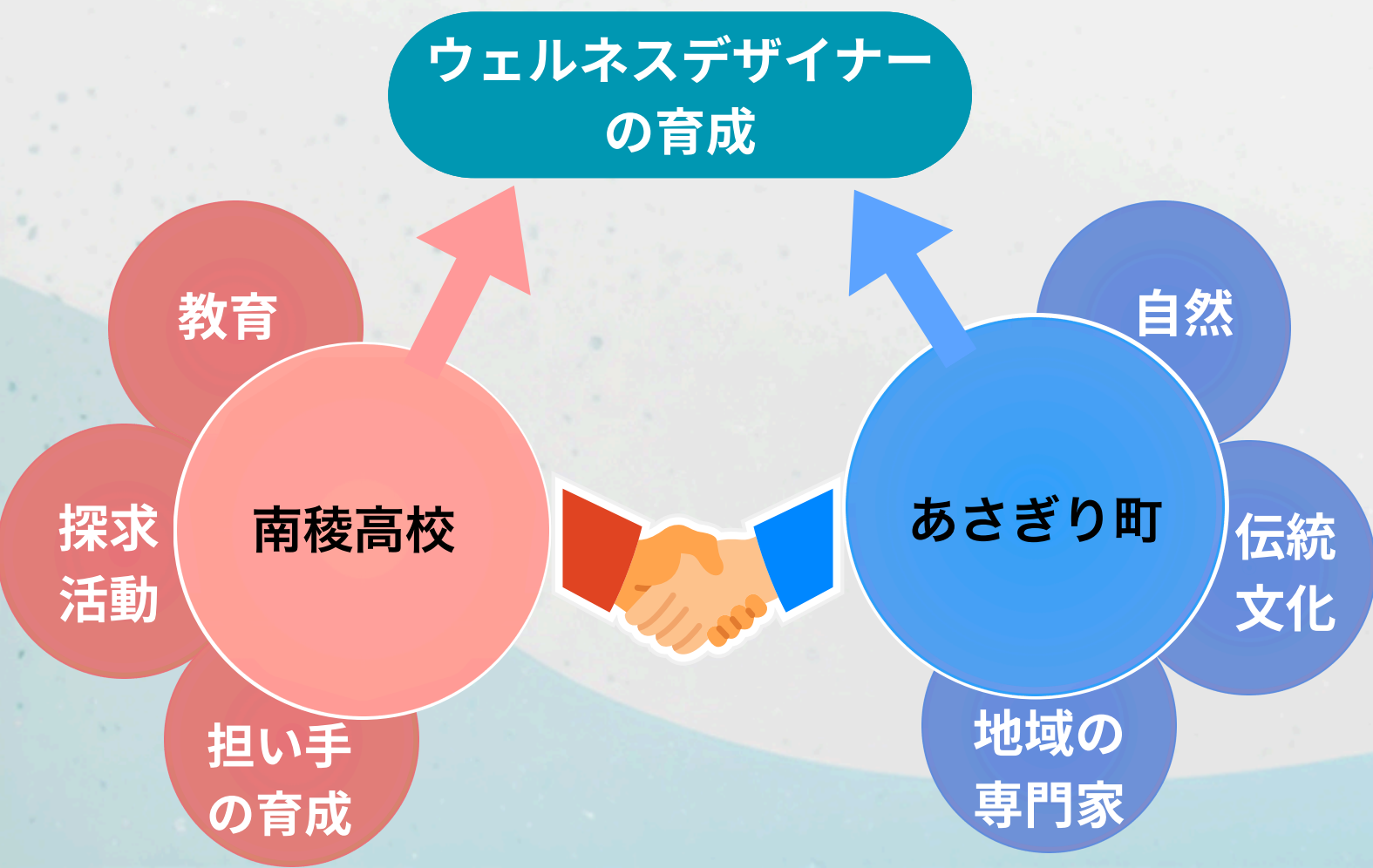
今後の少子化やこれまでの入学者の傾向、地域性などを鑑みて、あさぎり町と南稜高校が一体となり、地域一丸となって次代の担い手を育む機会へとつなげていく。

2

各学科の現状の取り組みとあさぎり町の方向性や地域資源を鑑みて、ウェルネスをデザインする取り組みとして整理し、『ウェルネスをデザインする人材』を育む機会としていく。

3

地元の専門家や起業家を講師に招き、多角的な視点から「健やかな暮らしと産業のあり方」を構想する力を育むことで、南稜高校を「地域の未来を担うリーダー」が育つ拠点へと進化させる。



## 6. 魅力化のための取り組み

### 1 既存知の再定義と「ウェルネス」への統合

これまで各学科が培ってきた専門知を、人間の幸福（ウェルネス）という共通の価値基準で整理します。単なる技術習得にとどまらず、その技術が「いかに心身の健やかさや社会の豊かさに寄与するか」を問い直すカリキュラムへと転換を図ります。

### 2 あさぎり町や周辺地域全体を「生きた学びのラボ」とする広域展開

あさぎり町及びその他周辺地域の豊かな自然や伝統文化を、感性を研ぎ澄ますための「素材」として捉え、地域社会そのものを思考と実践の実験場（ラボ）と位置づけ、生徒が地域資源に新しい意味を吹き込むプロセスを通じて、持続可能な未来を共創します。

### 3 多様な「他者」による感性の触発

地元の先駆者や起業家、外部の専門家といった多様な観を持つ「他者」とのかかわりを通じて、地域の課題を「可能性」へと変換するクリエイティブな思考を養い、正解のない問いに対して自らの意志で解を描き出す「構想力」や「主体性」を触発します。

### 4 自己と地域の「循環的レジリエンス」の構築

生徒自身が自らの心身を整える「セルフ・ウェルネス」を起点とし、その充足を地域社会の活力へと波及させる循環モデルを目指します。個人の幸福と地域の持続可能性を分かちがたいものとして捉え、変化の激しい時代においても、  
しなやかに未来を切り拓く  
「レジリエンス（適応力）」の種を地域と共に育みます。

**人と地域を幸せにする高校へ！**



**「ウェルネス」**  
**(心身の健康と社会的な幸福)**

# あさぎり町

お問い合わせ

あさぎり町役場 〒868-0408 熊本県球磨郡あさぎり町免田東1199番地

電話番号：0966-45-1111（代表）FAX：0966-45-3667

企画政策課